

2011年日本語学校の学芸会の感想

土曜日の夜に、日本語学校によって二〇一一年度ミドルベリ
ー学芸会が行われた。リッサーホールの込んでいる劇場で、学
生達と先生方はマイケル・ジャクソンの「スリラー」と
Partumeの「ワンルーム・ディスコ」のダンスを初め、Jー町
の「Jー町」の歌まで優れたスキットを演じた。そのパフォ
ーマンスは私にとって素晴らしくて、非常に面白い一生の思い
出になった。聴衆や演奏者として他の人も皆自分の思い出を作
ったようだ。

全部で今年の学芸会では十一のスキットがあつて、クラスご
とのスキット以外に、個人のスキットとよさこいと落語の発表
もあつた。その一々のスキットとスキットの間に各授業を代表
した五人の司会が聴衆を楽しませた。その五人のおかげで聴衆
は全然笑うのを止めなかった。

今年の面白いスキットの中で、最初のスキットのリンドさん
とデモンティグニーさんのラップが私にとって一生の思い出の
一つだ。聴衆は三分以上「Jー町」と呼ばれる創造的な演奏に
魅了された。特に第一列に座っていた女性はその演奏が好きな
ようだった。その魅了はよさこいのグループの演奏まで続いた
けど、その熱心な演奏のおかげで、今年の学芸会はもつと素晴
らしくなった。それに、初級一の寸劇も私の一つの思い出とな
った。いつも、そのとてもおかしきスキットに出てきた芸者の
冗談と、ドンリーさんのストリップショーを思い出してしまう。
それがいい事かどうかまだ決めていません。

しかし、先生方の最後の演奏に確かに一番感動させられた。
先生方のおかげで、学生達は夏の間、一生懸命勉強したり、理
解できないことが分かるようになったり、新しい友達を作った
りできた。そして、先生方の演奏は私達に一瞬でそれらのこと
を、思い出させてくれた。しかし、今年の学芸会自体はもつと
大きな思い出の一つだ。日本語学校が終わっても、日本語学校
のことと、ここに来た人が作ってくれた思い出もずっと持ち続
けるつもりだ。皆、思い出をありがとうございます。

(ウェリントン・ワンワン)



回想く日本語の小川に沿って

まもなく今年の夏学校が終わって、皆とお別れの挨拶をする。言語の
誓約がやがて切られて、すぐ英語の世界に戻るということがはつきり分
かっているのに、四苦八苦山積みの宿題と闘っている間は、この八週間
の出来事を回想する時間さえない。しかし、新聞クラブのおかげで、し
ばらく宿題を横に置いて、回想できる。

実は、私の母語は中国語なので、日本語の新しい単語に出会うと漢字
から字の形で意味や読み方を推し量っていた。それは普通は効果的な方
法なのに、来る前には過度に頼っていたので、言葉の意味が分かったが、
作家が伝えたい意味をあまり理解できなかったから、なかなか勉強が進
まなかった。

でも、中級二の学生ともなると、日本人の
読者のために書かれた記事や小説を読んで、
場面と自分の感想を詳しく説明しなければな
らないので、ただ漢字の意味が分かるだけ
は足りない。面白いことに、他人が漢字に打
ち込んでいる時に、逆に私は漢字に頼るのを
やめることにした。漢字をただ日本語の一部
として扱うようになってから、日本語のさら
さら流れるような美しさが見えるようになっ
た。それ以来、私にとって、日本語とは小川
のようにゆっくり流れる言語と言ったところ
だ。

そういうふうな想像したら、日本語に夢中になった。この八週間、日
本語の小川に沿って、川を流れるうちに、色々な景色が目に入ってきた。
落語を聞いた時に、江戸の風景が見えた。笹森さんのお話を聞いた時に
表れたイメージは戦争中最大の被害を受けた市だったのに、広島が難関
を乗り越え、復興に向かって、今は平和を代表する町になったことだ。
学校の様々な講座や行事に参加するうちに、その日本語という小川に沿
って私の視野が広がった。

日本語に没頭している私は、今はまだ小川の終わりが見えない。正直
言って、この先も、その終わりは見えないだろう。しかし、終わりに着
くより旅の過程を楽しむのがもつと大切だと思っている。
これは夏学校から学んだことだ。



(ロー・カイヘン)

キレる若者達

世界で一番安全な国だと言われている日本では、最近、少年犯罪件数が増えている。日本の社会は悩まされている。若者の犯罪件数は欧米諸国より少ないが、それは現在の日本で最大の社会問題の一つとなっている。

少年犯罪件数が増えている理由は、最近の若者達は、慢性的にストレスの問題を抱えているからだと言われている。若者達は若者らしく楽しみに耽ったり自由に時間を過ごしたりすることができず、勉強や習い事に追われて、毎日圧力鍋のような世界で忙しい生活をしている。しかし、そのような社会で生き残れない若者達は、突然、怒り出して殺傷事件を引き起こすそう。そして、マスコミは、昂ぶった怒りの感情が我慢の限界を超えて一気に噴出す様子を「キレる」と表現し、その若者達を「キレた若者達」と呼んでいる。

ある研究によると、キレた若者達、特にキレた生徒はよく「学校もイヤだし、家庭もイヤだ」と言い、自分の人生に欲求不満を感じているそう。なぜならば、その生徒はよく友達の間で仲間外れにされたり、家族にも無視されているからだと言われている。しかし、もしその若者達を取り巻く人間関係が安定していて、温かいネットワークの中に包まれていれば、例えばストレスに耐えられなくなっても、若者達は大きい暴走には至らないそう。

研究者は生徒を支えられるネットワーク以外に、生徒が安心感を持って過ごせるような学校の改革も必要だと指摘している。キレる可能性がある生徒を守るために様々な変革も重要だが、まずは、生徒が社会によって決められた人生に追われず、自分の夢を追って、好きなことをするべきだと思う。

(キム・ジェニ)

信じられない折り紙

折り紙は日本の伝統的な芸で一枚の正方形の紙で何でも作れます。折り紙には、皆に知られている鶴ばかりではなく、他の素晴らしい、本物のような大変複雑な動物や花等も沢山あります。それどころか、折り紙の代わりにアメリカの紙幣も使われています。今回は、この折り紙の世界を紹介したいと思います。

世界中で一人の折り紙作家は特にアメリカの紙幣の折り紙で有名です。ウォン・パークの紙幣の折り紙は細かくて、複雑です。一ドル札でウォン・パークは蝶々を始めスター・ウォーズのミレニアム・ファルコンも作りました。しかし、ウォン・パークの最高傑作は、彼が作った一ドル札の鯉だと思えます。その鯉は鱗も目も口ヒゲもあるので、生きていくような折り紙です。

今では、折り紙はとても有名で、今まで作られていない物はないかもしれません。現在、神谷哲史とロバート・ラングは折り紙のマスターと呼ばれています。ウォン・パークは紙幣の折り紙の世界のマスターだと考えられています。皆は日本語学校に来て、鶴が折れるようになったと思います。ウォン・パークの鯉を作ってみたらどうですか。難しく、時間がかかりますが、面白いですよ。

(水上・マイカ)



ね、知ってる？体を使った表現。面白くてよく使われるから、見てみてね！

腹が立つ：怒る／イライラする

けんじさんがひどいことばかり言っていて、もう、腹が立つよ！

舌が回らない：口から言葉が出ない／うまく伝えられない

A：あ、のどがかわいた！じゃ、ぐー、ぐっ、ぐうにゅう

B：え？牛乳のこと？

A：今日はつかれて舌が回らない。

目が回る：とても忙しい

宿題もテストも発表も、全部月曜日にあるの？！もう目が回るよ。

鼻が高い：誇りを持っている

私の娘はテニスの試合で優勝したから、鼻が高い。

頭が切れる：頭がよくて、すぐに問題を解ける

どんなに難しい計算問題を出しても、この学生は答えがすぐわかる。本当に頭が切れるね。
(フランツ・エリック)

英語で簡単に説明できない日本の言葉

さすが：他の人がある人の性格や行動について、考えたとおりで、ほめる時に使う言葉

「フランクさんはホワイトハウスへ大統領に誘われた。」

「ああ、さすが。彼は若い時からピアノをひいている。」

ありがとう めいわく：誰かが何かしてほしくなかったお願いをしてしまったこと

ぼくの友達はぼくが好きな人と話して欲しくなかったが、彼はぼくのために、彼女を今週末のパーティーに誘ってしまった。これからは彼女と話す、恥ずかしいですが、そのありがためいわくの友達にお礼をいわなくてはいいけない。

よこ めし：外国語を勉強している時に感じるストレス

ぼくは日本語を勉強したことあるから、中国語はもっと習いやすくなると思っていたが、やっぱり中国語の発音はすごく難しく、よこめしだ。

教育ママ：子供に勉強ばかりさせるお母さん

花子のお母さんは教育ママで、花子は何か楽しいことをしようと、お母さんは許せない。花子はいつもお母さんに勉強させているから、ひまな時間は本当に少ないです。
(マッキニー・カメロン)

先週のクロスワードパズル：

- 1) ヤクルトスワローズ 2) コクハク 3) キンモンキョウ 4) ハットリハンズウ 5) メイジ 6) ワンワン 7) ジロジロ 8) ミルズ